

## 関東における木炭流通実態調査

県北広域振興局では、木炭産業の振興方針を検討するため、平成22年7月に、東京・神奈川地域において、流通や価格形成の実態調査を、問屋2件、小売店4件で実施しました。

### 1 流通について

岩手県木炭協会の平成21年度の調査では、管内から東京・神奈川へ移出される木炭量は660トンで、今回の調査対象の取扱量は250トンとなり、岩手木炭の約4割の流通形態が、県内移出業者⇒問屋⇒小売となっていました。

### 2 販売状況について

これまで、岩手木炭の用途は、業務用、個人用の燃料が主とされてきましたが、現在、業務用は火持ちが良く、安価なオガ炭が主流となり、岩手木炭は個人用（バーベキュー用など）が主となっていました。

一方、小売店では、個人用に岩手木炭を販売する際、火付けの方法を事前に説明し、1kg程度に小分けして販売し、リピーターを作るなどの工夫を行っていました。

### 3 岩手木炭の長所・短所

調査の結果、汎用性が高く、ハンドリングが良いという長所を持つ一方、はぜる（細かい火の粉が飛ぶ）、火持ちが悪いなどの短所があるとの回答を得ました。

### 4 価格形成について

岩手木炭の小売価格は、ホームセンターの価格により影響を受けるものの、短期的な変

動は少ない傾向にあり、県内の木炭集荷の際に起こる価格変動の要因は別にあることが推測されました。今後は、関西地域の調査を実施する予定です。



写真1 問屋での調査（東京）



写真2 問屋の倉庫（東京）



写真3 小売店（神奈川）